令和６年度 第８回 いいだ未来デザイン会議
議事録及び会議資料

令和６年８月26日
丘の上結いスクエア ３階 ムトスぷらざ
会議室Ａ～Ｄ

いいだ未来デザイン2028後期計画における「基本目標（案）」に対する意見のまとめ

～ 私が考える『基本目標のタイトル』 ～

■基本目標１　：　市民が将来にわたり地域に誇りと愛着を持てるまちづくりを進める
■いいだ未来デザイン会議担当分散会　：　１班
■分散会メンバー　：　前島委員 / 永井委員 / 三浦(宏)委員 / 石神委員

私が考える『基本目標のタイトル』

No.	私ならこうする…	重要ワード・keywordはこれだ！	発言要旨	意見提出 発言委員
1	人とつながる	20地区、お祭り、おせっかい(方言)	・「丘の上」、「りんご並木」、「中心市街地」という言葉がひっかかる。丘の上を　中心に飯田市を盛り上げようという意味だと思うが、丘の上以外の地域の住民は、他人ごとに感じる。飯田市の良いところは、20地区それぞれに魅力があることだと思っている。 ・20地区の魅力をアピールすることが大切である。今は、アピールが足りないと感じている。 ・お祭りや獅子舞などの20地区にある伝統的な文化は、地域のつながりを再興するのに大きな意味がある。 ・移住者へお世話をしたりコミュニケーションをとりながら関係性を作り、仲間になっていく。地域の仲間の存在が、ここに住み続けたいという想いになり、愛着を育み、行動へ移すきっかけになっている。つまり、人とのつながりができることが行動するきっかけになる。	三浦(宏)委員
2	「将来にわたり」はいらない	20地区の魅力	・20地区それぞれの魅力や活動があることが人形劇フェスタなどの力にもなっている。 ・こどもは地域にとって大きな存在である。夏休みの宿題を地域の大人が見るなどの地域で育てる活動は地域の活力になる。 ・地域のお祭りに3世代で参加している姿を見た。親や祖父母とお祭りに参加する経験は、こどもにとって地域の思い出として残るものだと思う。受け継がれる姿をPRするのが良い。	永井委員
3			・例えば上久堅の十三の郷など地域が分かれて単位が小さくなることで、アクセスが近くなる(例えば、行政との距離など)。住民にとって地域のことが自分事になってくる。 ・20地区それぞれの取組、魅力があることが飯田市の良いところであり、アピールすることが大切である。 ・愛着は何で育まれるかというと、ヒト・モノ・コトでいえばヒト。人をきっかけに静かな愛着が育まれ、アクティブな愛着になっていく。 ・祭りは地域の誇りを喚起する、有力な道具であるといわれる。成長の段階に合わせて関わり方があり、地域の誇りを常に繋げていける。地域の獅子舞も、若者が帰ってくる大きな原動力になっている姿を見た。伝統文化という資源を絶やさないように、再び盛り上げる必要がある。 ・地域外に出たことによって地域の良さを再発見し、戻ってきたくなることはある。外に出るなではなく、どんどん出ましょうというという姿勢も大事。外からの目で地域の魅力を再発見し、磨きをかける。	石神委員
4			・移住・定住の取組について、上村地区では高齢になり一人で地域に帰ってくる動きがある。もともとつながりがあるため帰ってきやすく受け入れやすいし、UターンならIターンよりもPRがしやすい。 ・小さい自治の単位は大切だと実感している。野菜を譲り合うなど、お互いに顔の見える関係の中で助け合っている。 ・霜月まつりの湯神楽保存会は、上下関係が強い組織だったが、若い方々の意見を聞いて、若い方々が自由にできるよう雰囲気を変えてきた。	前島委員

戦略◆（ねらいに向けた４年間の取組の方向性）の妥当性

No.	①誰に・誰と・誰が/②何を/③どのような状態にする	発言要旨	意見提出 発言委員
1	ホームページの広報	・市公式ホームページでは、公民館の情報などはほとんど出てこないが、20地区がそれぞれ魅力的なホームページを運営している。もっとアピールするべき。	三浦（宏）委員
2	再発見		三浦（宏）委員

必要な取組のアイデア

No.	具体的な取組のアイデア	発言要旨	意見提出 発言委員
1			

いいだ未来デザイン2028後期計画における「基本目標（案）」に対する意見のまとめ

～ 私が考える『基本目標のタイトル』 ～

■基本目標２　：　住民同士の助け合いよる地域づくりを進めるとともに社会基盤を強化し、安全・安心な暮らしを実現する
■いいだ未来デザイン会議担当分散会　：　１班
■分散会メンバー　：　前島委員 / 永井委員 / 三浦(宏)委員 / 石神委員

私が考える『基本目標のタイトル』

No.	私ならこうする…	重要ワード・keywordはこれだ！	発言要旨	意見提出 発言委員
1	お隣さんと仲良し	他人事にしない、防災教育	・地域で起こった災害を、そこに住んでいるこども達、大人が勉強するべき。一般的なことを学ぶよりも、身近で起こったことを学ぶことによって、有事の時にどうしたら良いか、将来外に出ていったとしても住んでいるところでの防災意識が醸成できる。そのために、自分事として落とし込むことができる。 ・外国人への情報発信について、事前の情報だけではなく、実際に災害が起こった時などの有事の際の情報発信体制を整備する必要がある。	三浦(宏)委員
2	住民・行政の協力で、安全安心な暮らしへの社会基盤を実現する		・公助について、飯田は「公」に対する意識が他地域と違うと感じる。「公助＝行政が、市役所がなんかやってくれる」が一般的な考え方であるが、飯田の場合は「公」が自分事になっている。 ・消防団員の不足について、「消防団」は古い言葉と感じる。地区ごとで全く違うネーミングにしたり、かっこいいTシャツを来たりして、若者が入ってきたいオシャレな雰囲気を作ることが必要。若者が入ることで、より若者が入りやすくなる。 ・インフラ整備は「公」、運用は市民の力。なんでも「公」は違う。	石神委員
3		住民同士のつながり、安全・安心な暮らし	・消防団、PTA、お寺の檀家にしても入らない人や抜ける人が多く、つながりが希薄になっていると感じる。 ・組合未加入者、抜けてしまった方にも、例えば訓練の情報などが届くことが必要である。	永井委員
4	住民同士の助け合いによる地域づくりと、インフラを強化し安全・安心な暮らしを実現する			前島委員

戦略◆（ねらいに向けた４年間の取組の方向性）の妥当性

No.	①誰に・誰と・誰が/②何を/③どのような状態にする	発言要旨	意見提出 発言委員
1	児童･生徒が自分の地区であった災害を学ぶ		三浦(宏)委員
2	個人情報		三浦(宏)委員
3	外国人に向けた情報発信		三浦(宏)委員

必要な取組のアイデア

No.	具体的な取組のアイデア	発言要旨	意見提出 発言委員
1			

いいだ未来デザイン2028後期計画における「基本目標（案）」に対する意見のまとめ

～ 私が考える『基本目標のタイトル』 ～

■基本目標３　：　飯田(ここ)で育って・育ててよかったと実感できるまちづくり
■いいだ未来デザイン会議担当分散会　：　２班
■分散会メンバー　：　三浦(弥)委員 / 牧島委員 / 山上委員 / 菱田委員

私が考える『基本目標のタイトル』

No.	私ならこうする…	重要ワード・keywordはこれだ！	発言要旨	意見提出 発言委員
1	いいね！	「育って」「育てて」	・とても分かりやすい。	三浦委員
2	いいね！	住んで良かった、住み良いは「育って、育てて」の延長の上にあるのではないでしょうか。	・敢えて言えば、「飯田(ここ)で育って・育てて、住んでよかったと(本当に)思えるまちづくり」としてみましたが、本当は「いいね！」です。	牧島委員
3	いいね！	まちづくり・地域づくり→風土の醸成 親も一緒に育ち、こどもの成長をみんなで喜び	・まちづくり、地域づくりに違いはあるのか。まちづくりという言葉の使い方。まちづくり委員会の負担のこともあり、基本目標の中に「まちづくり」が入ることで、まちづくり委員会と受け取る方もいるのではないか。	山上委員
4	一人ひとりの思い、想い(おもい)、ねがいを実現できる”わたし”を育てる(育む？)いいだ。	思い、想い、おもい、ねがい、実現	・一人ひとりの思いを描く。一人ひとりがなりたい自分になれると戻ってきたいという気持ちにつながる。一人ひとりを大切にすること。	菱田委員

戦略◆（ねらいに向けた４年間の取組の方向性）の妥当性

No.	①誰に・誰と・誰が/②何を/③どのような状態にする	発言要旨	意見提出 発言委員
1	①こどもたちに②（主体的で楽しい）充実したレベルが高い教育により③（将来が広がる）学力がつく（又は学力がつく基盤を整える）→リニア開通までに教育レベルを上げることのできる基盤を構築する。 →学校教育だけに頼らなくてもいいかもしれない！ →豊かな教育を得るために人口が流出しないように！ ①高校生に限らず子育て中の親、子育て後の親も全世代の市民が②地域を離れずに学びを深めることができる③教育に重きをおいた地域環境の整備 →都心で得られる教育の充実が飯田（ここ）にはある。→こどもにも大人にも（全世代）		三浦委員
2	①こども・若者②自治（政策立案・実行）③もっと関われる環境作り（例えば公民館など）		牧島委員
3	①若い方？（若いお母さん）②子育てを③楽しめるように、産休・育休の期間延長など企業に働きかける（インセンティブを付与する。）。国の仕事だとは思いますが、、、		牧島委員
4	①こども②安心して暮らせるために③児童館の充実（施設・設備）と指導員の増員と待遇の改善		牧島委員
5	①若者②地元の高等教育機関③選択できるよう大学も含めた研究の推進を図る（大変だとは思いますが、、、）。		牧島委員
6	①幅広い年齢層②デジタル技術（特にSNS）③安心して便利に使えるために、学びの機会を設ける（スマホ教育の充実等）。		牧島委員
7	①子育て世帯家庭②安心、安全の維持③随時サポートできる体制、資源		山上委員
8	①地域内②こども、認知③地域とこどもがつながる		山上委員
9	①市民一人ひとり②働き方③選べる、柔軟になる		菱田委員
10	①こどもの②おもい、ねがい③周りの人が受け止められる場の創設		菱田委員
11	①こどもの②できた！よかった！③経験を積み重ねられる機会の強化・増加		菱田委員
12	①市民一人ひとり②多様な価値観、大人に③出会えて、学べる場を増やす		菱田委員
13	①市民一人ひとり②生活に根差した価値観を③尊重できる生活支援		菱田委員

必要な取組のアイデア

No.	具体的な取組のアイデア	発言要旨	意見提出 発言委員
1	地域の高等教育に係る環境の充実 －地域の中に豊かな教育、進学の選択肢がある教育環境の整備に取り組む。 －具体策（既存の教育機関のカリキュラムの変更、必要な教育分野の大学誘致）		三浦委員
2	様々な取組を実践していただけるとのことで、大変有難く、また嬉しく思っております。		牧島委員
3	公民館活動、負担なく参加できる。		山上委員
4	こうしたい！ああしたい！という思いは、それを可能にする環境や支えがあってできるもの		菱田委員
5	過重な負担を背負わせないように、公共ができることをもう一度再点検、整理する。		菱田委員
6	頭でっかちにならず、気軽にいろいろ取り組める仕組みづくり		菱田委員

いいだ未来デザイン2028後期計画における「基本目標（案）」に対する意見のまとめ

～ 私が考える『基本目標のタイトル』 ～

■基本目標４　：　自然豊かな循環型の社会へ移行する
■いいだ未来デザイン会議担当分散会　：　３班
■分散会メンバー　：　福岡委員 / 矢澤委員 / 福澤委員 /（竹内委員）

私が考える『基本目標のタイトル』

No.	私ならこうする…	重要ワード・keywordはこれだ！	発言要旨	意見提出 発言委員
1	人と自然の調和に向けた挑戦	環境文化都市、バランス、エネルギーの省と創、行動変容、水、水素	・ねらいと戦略から重要だと思うワードを拾った。 ・まずは、飯田市が長期に取り組んできている「環境文化都市」は重要なワード。 ・ねらいを見ていて、共通することとしてなるほどなと思ったのが「バランス」。私たちが物を使って捨てることは需要と供給の「バランス」、エネルギーを使うことと作ることも「バランス」、自然だけあれば良い訳ではなく、私たちの自然との関わり方も「バランス」。「バランス」が重要なキーワードになっていると思う。 ・「うごくる。」に象徴されるとおり、私たち一人一人が「行動を変えていく」こと、実際に動いていくということも大切なこと。 ・水・グリーン水素のような、新たな「チャレンジ」もキーワードだと思う。 ・こうしたキーワードを繋げて考えてみると、「人と自然の調和に向けた挑戦」というのはどうかと考えた。 ・関係ない話だが、実家でブルーベリーを育てているが、草刈りに追われるというのがわかりやすいかもしれないが、人間は自然と闘ってしまう。人と自然のそういった関係性の延長線上で農業があったのかなと感じている。必要な栄養は人間が揃えて土に栄養を入れて育てるという営みだと思うが、そうでは無いようにしていかなくてはいけのかなと考えている。 ・ブルーベリーは、比較的手がかからない植物だが、放置しては実ができない。ほどよい勘所で、ほどよい剪定をすると良い実ができる。元々そのものが持っている力を人間が少しだけ力を加えて、元々の力を引き出すという考え方が大切になるのではないかと思う。	福岡委員
2		次世代につなぐ、自然と人間の共生、ポジティブ、ジブンゴト	・この基本目標では、市民の方々がジブンゴト化しづらいが、しないと物事が動いていかないと感じた。この点からは、「ジブンゴト」はキーワードだと思う。 ・4つの「つ」のつなぐのところで大事だと思ったのが「次世代につなぐ」ということ。こういう言葉を盛り込んでいくことで、「ジブンゴト」化してもらえるのではないかと考える。 ・ネイチャーポジティブの「ポジティブ」は、これまで自然が減損して悪い方向に行っていたところを、プラス反転させようということだと捉えている。「ポジティブ」という言葉は市民の皆さんもわかりやすく、明るい気持ちになることもあり、使えるといいなと考えた。 ・自然と人の共生という時の「共生」はやはり大事な言葉だと思う。ただ、いろいろな所に「共生」が使われているので、ここで使いづらいかもしれないと思う。 ・こうしたキーワードを要素として、タイトルを考えたらどうかと考えた。	福澤委員
3	自然と人を結び環る(めぐる)〇〇(飯田？社会？)へ歩む(若しくは「うごく。」)	人と環境の境が環る、暮らしの中に環境、環境の中に暮らし、ポジティブ、共生	・タイトルに「移行する」という言葉が、全くないものから、「パキッ」と新しいところや物へ移るイメージをしていたがそうではなくて、つながっていて、めぐって、それを大事にして継続して未来に向かっていくということだと理解した。 ・こうしたことから、「自然と人を結び、環る(めぐる)飯田or社会へ歩む(挑戦とまではいけないけど、歩みを止めないという意味で「歩む」)、若しくは「うごくる。」になぞらえて「うごく。」と考えた。 ・キーワードとすると、共生、ポジティブといった前向きな言葉は、市民の皆さんに響くと感じた。	矢澤委員

戦略◆（ねらいに向けた４年間の取組の方向性）の妥当性

No.	①誰に・誰と・誰が/②何を/③どのような状態にする	発言要旨	意見提出 発言委員
1			

必要な取組のアイデア

No.	具体的な取組のアイデア	発言要旨	意見提出 発言委員
1	信州大学案件は、よりわかりやすく、どこまで重きを置くか		福澤委員
2	人と環境が合わさっている場所に人を集めて深呼吸、今まであったイベントに深呼吸を	・人と環境が合わさっている場所に人を集めて深呼吸するイベントであったり、今まであったイベントに、「深呼吸」する時間を設けて、自然を感じるような取組は面白いのではないかと思う。	矢澤委員

いいだ未来デザイン2028後期計画における「基本目標（案）」に対する意見のまとめ

～ 私が考える『基本目標のタイトル』 ～

■基本目標５　：　誰もが多様な働き方で活躍でき、次世代につながる魅力ある産業づくり
■いいだ未来デザイン会議担当分散会　：　４班
■分散会メンバー　：　高橋委員 / 河野委員 / 竹内委員

私が考える『基本目標のタイトル』

No.	私ならこうする…	重要ワード・keywordはこれだ！	発言要旨	意見提出 発言委員
1	誰もが多様な働き方ができる、世代を超えて未来へつながる産業形成	地域の資源と魅力、域内調達・域内消費、参加型・交流型マーケット	・基本的には現在のタイトルで良いと思う。 ・産業という言葉とても広いため、産業と表現することが適当であるのかは悩ましい。 ・地域の資源と魅力は肝に据えていく必要がある。 ・若い人がどのような働き方を求めているか。自由に個性を生かして働きたい人が、楽しんでやれる場所があると良い。 ・市のメッセージやキーワード(目的)が伝わればよい。	高橋委員
2	飯田市で暮らし、飯田市で働きたい人を増やす	安心して働ける、成長できる機会、お金だけではない心の満足、周りの県や地域からうらやましがられる	・安心して働ける企業がたくさんある。 ・お金だけのことを言えば都会に行った方が稼ぐことができるが、お金だけはない満足がある。上手く発信していく必要がある。 ・市の戦略の観点として、人を使うということがとても大事 ・観光客や滞在人口を増やしていくということに尽きると思う。計画は外向けに作ると、網羅的になってよく分からなくなる。より具体的な内部向けの計画は別に作るべき。	河野委員
3		チャレンジを応援する	・ねらいを含めて網羅的なタイトルになっていると思うので、これはこれで良いが、市民の方が自分事として捉えられるかどうか、伝わるかという部分は難しい。 ・働き方を支援するというニュアンスが強い基本目標だと思うので、そういったことがタイトルから伝わってくると良い。	竹内委員

戦略◆（ねらいに向けた４年間の取組の方向性）の妥当性

No.	①誰に・誰と・誰が/②何を/③どのような状態にする	発言要旨	意見提出 発言委員
1	生産者、若者（やる気のある人、事業者）が、自分の得意技を生かして、外に向けてPR・販売できる→場を作り常態化させる	・おもしろがって参加して、おもしろがって訪れる。	高橋委員
2	焼肉店が、水素を使った店にして、水素焼肉として飯田焼肉のPRとする		高橋委員
3	中堅企業に、DX化について、考え方や方法を教授する（人口減少に備えて）	・人が絶対的に足りなくなっていくので、企業のDX化や省人化は必須。それを推進していこうとしている企業を金銭的に支援する。	河野委員
4	市が、観光客を、増やすために大手旅行代理店などに協力を求める	・観光客を地元の人で増やそうとすることは難しい。	河野委員
5	農業の、域外や海外への、販売量を増やし外資を獲得する	・この地区の農産物はおいしいので、外に売っていく機会を作らなければいけない。	河野委員
6	水素の、もうかるビジョンを、企業に示す	・水素に地域の人の関心が薄い。企業にとってのメリットが分からない。LPGの代わりになると言われているが、安くなるのか高くなるのかも分からない。SDGsの次は脱炭素。脱炭素という観点で企業の価値を高めるといったような、夢のあるビジョンを描いて示さなければいけないのではないか。	河野委員
7		・地域内循環という言葉に抵抗がある。この地区のことをこの地区だけでなんとかしようという思いが強すぎる。リニアや三遠南信ができれば外から人も来て競争が厳しくなる。外に向けて考えていくことが必要 ・域内消費について、飯田市に住んでいるなら飯田市のものを買えというのは、精神論の世界。適切な競争の中で経済合理性がないと長続きはしない。域内での実力を上げていく、地域として力をつけていくことが必要 ・教育の中で、地域のことを知る、地域の会社・産業・観光を知ることは大切 ・地場の物を高く外に向けて売って、外から来た人も高い地場のものを買っていくのが外貨を稼ぐには良い。それだけ魅力があるものを作っていくことが必要。高くても適切な価格であればよい。	河野委員
8		・観光で来たら、地域の食材を使った料理が食べられるなど外向けであっても域内消費ができるように、いろいろな側面から取り組んでいくことが良いのではないか。	高橋委員
9	農産物について、南信州ブランドが確立できる		竹内委員

必要な取組のアイデア

No.	具体的な取組のアイデア	発言要旨	意見提出 発言委員
1	天龍峡PAイベント広場を参加型店舗を中心とした道の駅化する	・天竜峡を何とかしていく必要がある。天竜峡のイベントが365日できるような参加型・交流型マーケットにしていってはどうか。	高橋委員
2	企業と連携してDX化を推進する企業を金銭的に支援する→計画を提出し、市が審査（アドバイスもする）して資金を提供		河野委員
3	市が大手の旅行代理店にプロポーザルを求める（観光客を増やす）	・条件として、地元の人を使う。プランを作ってもらいインバウンドを呼び込む。ノウハウや人脈を持ったところにプロポーザルを求めていく。	河野委員
4	水素ビジネスで夢のあるビジョン（経済的にもプラスになる）を示す		河野委員
5	丘の上の空き家を店舗として市が借り上げてコンペを開いて県内外者に貸す	・空き家をどのように活用するかはとても大事な問題。空き家を市が借り上げて、コンペを開いた上で、店舗として貸出することができないか。	河野委員
6	輸出（農産物）について、戦略にあってもの良いのではないか		竹内委員
7	外国人の活用、インバウンドの受け入れなど、外国人の視点があっても良い		竹内委員

いいだ未来デザイン2028後期計画における「基本目標（案）」に対する意見のまとめ

～ 私が考える『基本目標のタイトル』 ～

■基本目標６　：　支えあい、誰もが尊重され、健やかにいきいきと暮らすことのできるまち
■いいだ未来デザイン会議担当分散会　：　２班
■分散会メンバー　：　三浦(弥)委員 / 牧島委員 / 山上委員 / 菱田委員

私が考える『基本目標のタイトル』

No.	私ならこうする…	重要ワード・keywordはこれだ！	発言要旨	意見提出 発言委員
1	誰もがその人らしく暮らすまちをつくる	・「その人らしく」あるためには、尊重は欠くことができない。 →健康レベルによって思い(健やかに、いきいき)は異なる。 ・「誰もが」であるためには、支え合いは欠くことができない。 ・「暮らす」主体的な表現。「暮らせる」「暮らすことができる」ではなくあえて	・端的が良い。 ・「その人らしく」は個人の想いや状況によって異なる。	三浦(弥)委員
2	いいね！ 「できるまち」の修正案が浮かびません。(すみません！)とても良いと思うのですが、、、	安心	・これで良い。	牧島委員
3	共に支え合い、誰もが尊重される(社会の実現と？)健やかにいきいきと暮らし続けることができるまちを作る	共生社会、長寿社会	・一つにまとめるのが難しいというのが正直なところ。 ・テーマは共生社会や長寿社会の2つの何かをすること。 ・「暮らし続ける、暮らし続けていける」という部分が、私なりに出てきた意見の一つ。 ・なるべく短めにした方が良い。	山上委員
4	誰もが生涯を通じて安心して活躍できるくらし、まちの実現？	安心、活躍	・誰もが生涯を通じて安心して活躍できる。支援するだけではなく、どう主体的になるか。ただでさえ少ない人口で、社会的包摂がキーワードとなる。多様や複雑な困難を抱えている重層化している人たちが多い。そのままでは活躍できない人をどう支えていくか。 ・大人がボトルネックにならないようにすること。	菱田委員

戦略◆（ねらいに向けた４年間の取組の方向性）の妥当性

No.	①誰に・誰と・誰が/②何を/③どのような状態にする	発言要旨	意見提出 発言委員
1	①障がいを持つ方②自己の能力を③充分に発揮して活躍できる環境を作る。		牧島委員
2	①働き盛り世代②健康維持増進の③必要性を学べる機会を増やす。		牧島委員
3	①高齢者が②日常的に文化･スポーツ活動を③できる環境を作る。		牧島委員
4	①高齢者が②デジタル機器を③活用できるよう、支援する体制を作る。		牧島委員
5	①市民が要支援者に対し②支え合える場、環境③意識し具体的な取組 →まちづくり委員会（健康福祉委員会）ありきではない、社会資源の開発		山上委員
6	①多様で複雑な困難を抱える主体（住民）が②安心して相談でき③やりたいことに邁進できる体制構築		菱田委員
7	①一人ひとりが②その人しかできない役割を担い③ずっと活躍できる環境の保障		菱田委員

必要な取組のアイデア

No.	具体的な取組のアイデア	発言要旨	意見提出 発言委員
1	評価指標に「脳血管疾患罹患率」を加えてはどうでしょうか。前回飯田市は高いと説明があったので →戦略◆（上から4目）、想定する主な取組◇（上から5つ目）につながると思います。		三浦（弥）委員
2	「福祉まるごと相談窓口」はとてもすばらしいと思います。		牧島委員
3	支援して更に主体的に活動してもらうための仕組みづくり		菱田委員
4	社会的包摂に関わる啓発活動の強化（特に大人世代の価値観をup dateするため）		菱田委員

いいだ未来デザイン2028後期計画における「基本目標（案）」に対する意見のまとめ

～ 私が考える『基本目標のタイトル』 ～

■基本目標７　：　リニア・三遠南信道時代に向けた都市基盤をつくる
■いいだ未来デザイン会議担当分散会　：　３班
■分散会メンバー　：　福岡委員 / 矢澤委員 / 福澤委員 /（竹内委員）

私が考える『基本目標のタイトル』

No.	私ならこうする…	重要ワード・keywordはこれだ！	発言要旨	意見提出 発言委員
1	地域基盤をつくる。	次世代モビリティ、デジタル技術、課題解決、DX	・「都市基盤」という表現が気になるところで、私たちが住んでいるところを「都市」基盤といえるのかなと少し疑問に感じる。 ・「都市」ではなく「地域」基盤として、「地域基盤をつくる」としてみるのも一つと考えた。 ・デジタル技術は、これまでは、都市部のインフラが整ったところに住む人しか享受できなかったところを、少し離れた遠隔地や自然豊かな場所でも、都市部と同じことができるようになっている時代背景を考えると「都市」でなくても良いのではないかと思う。 ・重要なキーワードでは、「次世代モビリティ」、「デジタル技術」は、大切だと思うし、「課題解決」は重要なキーワードになると思う。 ・リニアや三遠南信は長く重厚な歴史の中で大きなゴールとしてあるが、デジタル技術は、直近で速いペースで進んでおり、こうした技術を取り込んでいくことは、直近にできる、すべきことで、この地域の課題でもあるので、積極的に取り組んでいただきたい。	福岡委員
2	都市基盤の構築、その先へ	その先的な要素、都市基盤をつくる先、未来、次世代、新たなステージ	・この基本目標では「リニア」と「三遠南信自動車道」は入れるべきワードであるとの思いは重々伝わってくる。 ・唯一「都市基盤」という言葉が、行政ワードっぽさを感じるし、市民の皆さんにはわかりにくい言葉だと思うので、変えたほうが良いとは思うが、戦略の内容を一言で表すワードは「都市基盤」以外に見当たらないからこの言葉なんだろうと推察する。 ・変えようがないというのが答えかなと感じる。 ・タイトルの部分では難しいところがあるが、都市基盤をつくることがゴール、目的ではないという考え方は良く理解できる。そういうことをうまく言葉にできないかと思い「都市基盤の構築、その先へ」といったように、次につながっている、その後感、未来感を加えられると良いなと思う。 ・不透明、先が見えないというネガティブな感覚ではなく、未来に向かうポジティブ感を表現できると良いなと考えた。 ・デジタルの記載は、この通りだと思うので良いと思う。	福澤委員

戦略◆（ねらいに向けた４年間の取組の方向性）の妥当性

No.	①誰に・誰と・誰が/②何を/③どのような状態にする	発言要旨	意見提出 発言委員
1	変わらないもの、守るものを見つける（選ぶ） 交通は便利になるけど、ここはずっと変えない、変わらないぞ！！	・リニアに向けて、未来に向かって整備することと同じように、変わらないもの、守るものを見つけて、リニアで飯田に降り立った人にそこを見てもらえるようにするストーリー性があると良いと感じる。	矢澤委員

必要な取組のアイデア

No.	具体的な取組のアイデア	発言要旨	意見提出 発言委員
1	飯田の暮らしの歴史　年表 リニアの歴史　年表　悲願　歴史をつないでいく	・今現在は、リニアの開通が先に延びて落胆しているけれども、リニアが開通した際には、今この瞬間も歴史になっていく、先人たちの戦いを積み上げてきたように、今の積み上げも歴史になるので、そうした歴史をまとめておくことが大事だと思う。	矢澤委員

令和６年度 第８回 いいだ未来デザイン会議
令和６年８月 27 日（火）

別冊

いいだ未来デザイン 2028 後期計画 原案(案)

後期計画に定める基本目標(案)

－ 後期４年間の取組の方向性 －

令和6(2024)年9月
飯田市

目　次

	基本目標	マネジメントリーダー	頁
基本目標１	市民が将来にわたり地域に誇りと愛着を持てるまちづくりを進める	市民協働環境部長	…… 1
基本目標２	住民同士の助け合いによる地域づくりを進めるとともに社会基盤を強化し、安全・安心な暮らしを実現する	危機管理部長	…… 5
基本目標３	飯田（ここ）で育って・育ててよかったと実感できるまちづくり	こども未来健康部長	…… 9
基本目標４	自然豊かな循環型の社会へ移行する	ゼロカーボンシティ担当参事	…… 13
基本目標５	誰もが多様な働き方で活躍でき、次世代につながる魅力ある産業づくり	産業経済部長	…… 17
基本目標６	支えあい、誰もが尊重され、健やかにいきいきと暮らすことのできるまち	福祉部長	…… 21
基本目標７	リニア・三遠南信道時代に向けた都市基盤をつくる	リニア推進部長	…… 25

関係するＳＤＧｓ



基本目標 1　市民が将来にわたり地域に誇りと愛着を持てるまちづくりを進める

ねらい

○ 市民が主体の住みよいまちづくりを推進するため、住民一人一人が地域課題に関心を持ち、まちづくりに参画します。

○ すべての市民が主役として、飯田に住み続けたいという思いを持ち続けます。

○ 自分たちの地域は自分たちでつくる「ムトスの精神」によるまちづくりを進めます。

○ 地域と行政が一体となって、関係人口づくりや移住定住を推進することにより地域振興を図ります。

○ 誰にとっても住みやすい多様な文化や価値観を認め合う地域社会をつくります。

○ 市民が集い・憩う、交流や賑わいが創出される魅力的な丘のまちを形成します。

戦略(考え方)

◆ 20地区の基本構想・基本計画の実現に向けて、地域のつながりを基盤にした持続可能なまちづくりの取組を支援します。

◆ 地域の問題や関心事について、学習活動や実践活動など住民が主体的に課題解決に挑戦できる環境を整備し、地域を支える多様な人材の育成につなげます。

◆ 未来の担い手であるこどもたちにとって「将来も住み続けたいまち」であるため、地域全体でこどもを育み、この地域に誇りと愛着を持ち続けてもらうための様々な取組を行います。

◆ 20地区がそれぞれの多様な地域資源を活用し、魅力ある地域づくりに取り組むことで、関係人口の創出･拡大から移住定住を目指す「20地区田舎へ還ろう戦略」を、地域と行政が協働して進めます。

◆ 移住定住の推進に向けて、まちづくりの原動力となる若者に「選ばれる地域」となるための様々な取組を全市的に展開します。

◆ ムトスの精神による市民活動の輪を広げ、市民活動団体やＮＰＯ法人等による市民や地域が元気になる取組を支援します。

◆ 国籍、性別や世代などの違いによる多様な価値観を「豊かさ」として生かし、共に支え合い、共に生きるために、お互いに理解し合う場や、多様な活動を支援します。

◆ 伝統文化を継承しながら、新たな文化を生み出す取組を支援します。

◆ 歴史と魅力ある施設や空間を生かし、多様な主体と連携･協働しながら、りんご並木を軸としたまちの賑わいづくり、歩いて楽しめるまちなかづくりを進めます。

◆ 市民や事業者と共に行う地域の魅力発信活動により、地域全体の魅力や地域資源の価値を広く伝え、興味や関心を喚起することにより、「行ってみたい」「食べてみたい」「ここに住みたい」という思いを行動につなげます。

◆ 20地区が行う地域振興等に係る取組に関し、デジタル技術を効果的に活用し、関係人口の創出・拡大を図ります。

【参考】基本目標と戦略(考え方)に基づく進捗状況を確認するための指標等及び主な取組(案)

想定する進捗状況確認指標、重要業績評価指標

指標	まちづくり委員会の組織・事業の見直しを行った地区数		自治活動組織への加入率		組合加入促進ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ活動により組合加入に至った件数	
基準値(単位)	— (地区)	基準年度 —	67.7 (%)	基準年度 2023	— (件)累計	基準年度 —
目標値(単位)	20 (地区)	最終年度 2028	69.0 (%)	最終年度 2028	800 (件)累計	最終年度 2028
指標	地域に誇りや愛着がある人の割合		こどもたちの地域の課題解決への意欲		こどもたちが身に着けた生きる力	
基準値(単位)	75.4 (%)	基準年度 2023	小6年 80.9(%) 中3年 70.8(%) 高校 62.2(%)	基準年度 2023	小6年 96.1(%) 中3年 95.6(%) 高校 54.3(%)	基準年度 2023
目標値(単位)	76.5 (%)	最終年度 2028	小中 県平均以上 高校 62.2(%) 令和5年以上	最終年度 2028	小中 県平均以上 高校 54.3(%) 令和5年以上	最終年度 2028
指標	新規移住相談件数		ＵＩターン移住者数		20地区応援隊寄附件数	
基準値(単位)	263 (件)	基準年度 2023	127 (人)	基準年度 2023	55 (件)	基準年度 2023
目標値(単位)	280 (件)	最終年度 2028	140 (人)	最終年度 2028	60 (件)	最終年度 2028
指標	市民活動・地域活動に参加している市民の割合		飯田の「ムトス」という言葉を知っている市民の割合		ムトス助成事業支援件数	
基準値(単位)	69.0 (%)	基準年度 2023	81.7 (%)	基準年度 2023	42 (件)	基準年度 2023
目標値(単位)	75.0 (%)	最終年度 2028	86.0 (%)	最終年度 2028	50 (件)	最終年度 2028
指標	他地域(外国人を含む)からの人を受け入れる市民の割合		審議会委員等女性登用調査		文化芸術活動	
基準値(単位)	85.0 (%)	基準年度 2023	30.8 (%)	基準年度 2023	42.2 (%)	基準年度 2020
目標値(単位)	92.0 (%)	最終年度 2028	33.0 (%)	最終年度 2027	50.0 (%)	最終年度 2028
指標	歩行者・自転車通行量		市営駐車場利用台数		VisitIIDA.com サイトユーザー数	
基準値(単位)	6,966 (人/日)	基準年度 2023	371,597 (台/年)	基準年度 2023	6,464 (ユーザー)	基準年度 2023
目標値(単位)	7,500 (人/日)	最終年度 2028	400,000 (台/年)	最終年度 2028	9,000 (ユーザー)	最終年度 2028
指標	IIDA2027 Xフォロワー数					
基準値(単位)	4,625 (フォロワー)	基準年度 2023				
目標値(単位)	7,000 (フォロワー)	最終年度 2028				

想定する主な取組

想定する主な取組のイメージ	担当･関係課等
◇ 20地区の基本構想・基本計画の実現に向けた地域主体の自治活動の推進 (1) 20地区基本構想・基本計画の実現に向けた地域主体の取組を支援します。 (2) 地域を取り巻く環境や時代の変化に対応していくため、各地区が行う自治活動組織の改革改善、事業の見直しなどの取組を支援します。 (3) 中山間地域が元気であり続けるための取組を進めます。	地域自治振興課 共生・協働推進課 結いターン移住定住推進課
◇ 地域に誇りと愛着を持った人材を育む学習活動の支援 (1) 地域の自然、歴史、文化など地域を知り理解を深める学習や、住民の課題意識や関心事に応える学習など、住民の主体的、協働的、探究的な多様な学びを支援します。 (2) 自らの生き方を主体的に切りひらき、人とつながりあっていくための力を育み、ふるさとを心根においた未来の地域の担い手や地域を支える人づくりを目指します。	公民館 生涯学習・スポーツ課 学校教育課
◇ 「結い」による移住定住の推進と協働による関係人口の創出 (1) 対面とオンラインによる情報提供と相談支援を行い、人と人、人と地域をつなぐ橋渡しを行い、移住者の増加につなげます。 (2) 市内事業所及び地域住民と連携し、「仕事を知り、人に触れ、地域に関わる」結いターンシップ事業を実施します。 (3) 地域や事業者等と連携し、活用できる空き家を活用するなど、移住者の住まいの確保を支援します。 (4) 移住コンシェルジュや地域住民と連携し、全市的に移住者の受入れと定住に向けた暮らしの支援を行います。 (5) マッチングシステムやＳＮＳ等による情報発信力の強化を図り、「20地区田舎へ還ろう戦略」と連動して、地域との出会いや関係性を深める取組を進めます。 (6) 官民連携による地域課題の解決に向けた取組により、都市部の若者と地域住民の交流による関係人口の創出につなげるとともに、地域プレイヤーを育成します。	結いターン移住定住推進課 地域自治振興課
◇ ムトスの精神による市民活動やソーシャルビジネス（地域課題解決型事業）の輪を広げる (1) 自治の力を強化するため、地域を自らより良くする活動や事業を支援し、継続性のある事業化を促進します。 (2) 既存の資源（人材、研修会、組織やネットワーク等）を最大限に生かし、公益的な支援組織（県、商工会議所等）との連携体制をつくります。	共生・協働推進課
◇ 国籍、性別や世代などの違いによる多様な価値観を互いに認め合う地域社会をつくる (1) 国籍や文化の違いなど多様な人材が、それぞれの個性と能力を発揮し活躍できるよう支援します。 (2) 人生100年時代の到来と人口減少社会において、シニア世代の活躍により地域を支える機会を創出します。	共生・協働推進課
◇ 市民による文化芸術の創造 (1) 市民が人形劇をはじめとする文化芸術への関わりを活発にすることで、文化に触れる楽しさや喜びを感じることを目指します。 (2) 文化芸術を主体的に行う市民が増えることで、誇りと愛着を持った文化芸術の創造へつなげます。	文化会館 新文化会館整備室
◇ 中心市街地の賑わいのあるまちづくり 「憩いや集いのステージとなるりんご並木」の形成を目指し、社会実験等の取組を踏まえたまちなかづくりを進めるとともに、多様な主体の参画により、中心市街地への誇りと愛着の醸成を図ります。	商業観光課
◇ 地域への関心を高め、効果的な情報発信 (1) 地域資源の価値や魅力に触れる活動を支援し、市民、事業者とともにＳＮＳ、メディアによる情報発信やイベントの開催などにより、多くの主体が関わることで地域への関心を高めます。 (2) 市民、事業者とともに飯田の魅力の発信に向け、多くの媒体によるターゲット層に応じた効果的で魅力的な情報発信により行動変容につなげます。	広報ブランド推進課

関係するＳＤＧｓ



基本目標 2

住民同士の助け合いによる地域づくりを進めるとともに
社会基盤を強化し、安全・安心な暮らしを実現する

ねらい

○ 日頃から住民同士が助け合うことのできる地域づくりを進めます。

○ 地域での「助け合い」を土台とした、安全・安心な暮らしを実現します。

○ 自助・共助・公助それぞれの重要性を認識し連携することで防災力を高めます。

○ 暮らしを支える社会基盤の強靭化等を進め自然災害に備えます。

戦略(考え方)

◆ 安全・安心な暮らしの実現に向けて、人と人とのつながり広めて「地域の力」を高めていくとともに、地域のことを地域で考える地域主体のまちづくりを支援します。

◆ 「自助」の大切さを市民一人ひとりが認識できる取組を進めるとともに、共に助け合い安心して暮らす地域の取組を支援します。

◆ 災害発生に備えた環境整備をはじめ、防災学習やデジタル技術の活用など公助の取組をさらに推進します。

◆ 地域とともにある消防団の組織体制を整備するとともに、消防力・防災力の維持・向上を図ります。

◆ 日常における市民の防犯意識の高揚をはじめとする犯罪被害防止の取組を進め、安心して暮らすことのできる社会を実現します。

◆ 安全・安心な暮らしを支える社会基盤の長寿命化と安全対策を計画的に進めるとともに、自然災害に備え防災・減災・強靭化を図ります。

◆ 平時におけるデジタルコンテンツを活用した防災学習や大規模災害時に備えた防災ＤＸに取り組みます。

【参考】基本目標と戦略(考え方)に基づく進捗状況を確認するための指標等及び主な取組(案)

想定する進捗状況確認指標、重要業績評価指標

指標	防災訓練や防災学習会への参加人数		個別避難計画の策定割合		刑法犯認知件数	
基準値(単位)	集計中(年)延べ	基準年度 2024	集計中(%)	基準年度 2024	271(件)	基準年度 2023
目標値(単位)	100,000(年)延べ	最終年度 2028	100.0(%)	最終年度 2028	250(件)	最終年度 2028

指標	準用河川の危険個所の整備率		橋梁長寿命化修繕工事の完了数	
基準値(単位)	0.4(%)	基準年度 2024	19(橋)	基準年度 2024
目標値(単位)	39.3(%)	最終年度 2028	77(橋)	最終年度 2028

想定する主な取組

想定する主な取組のイメージ	担当･関係課等
◇ 日常の地域自治活動を通した地域住民の顔の見える関係づくりと助け合いによる地域防災力の強化 日常の自治活動を通して住民同士のつながりを深め、災害時にも互いに助け合えるよう共助の意識向上を図ります。	地域自治振興課 公民館
◇ 市民一人ひとりの防災意識の向上、助け合いによる地域の防災力の強化とそれらを支える公助の取組の推進 (1) 無料耐震診断・耐震改修を促進するほか、建物内の安全性を高める対策、非常持ち出し品の準備、防災アプリを活用したわが家の避難計画づくりが進むよう自分自身や家族を守る意識の向上を図ります。 (2) 各地区の防災訓練がより実践的な訓練となるよう支援するとともに資機材の充実を図る補助制度を継続します。 (3) 避難行動要支援者が、地域の協力を得ながら安全に避難できるよう関係機関と連携し個別避難計画の作成を進めます。 (4) 多様な要配慮者が避難できる福祉避難所の確保を進めます。 (5) 各地区の状況に合わせた地区防災計画の見直しにつなげるため、市内20地区ごとの地震被害想定調査を進めます。 (6) 避難のあり方検討会や学習会等を開催し、市民の防災・減災意識の向上を図ります。 (7) 大規模災害時における迅速な被災者支援に向けてデジタル技術活用の検討を進めます。	危機管理課 福祉課 長寿支援課
◇ 飯田市消防力（消防団）整備計画に基づく地域消防力の維持・向上 (1) 大規模災害時に地域の防災拠点ともなる詰所について、女性団員への配慮に加え平常時には団員の教育・訓練・会議の実施場所として、安全に活動できる施設となるよう順次整備を進めます。 (2) 地域消防力の維持・向上のため、消防車両等の資機材の計画的な整備を進めるほか、団員の負担軽減に向けて必要な訓練を精査し実践的かつ効果的な取組を進めます。 (3) 団員の処遇改善や各種資格取得への助成などにより消防団活動の魅力を高め、団員確保に努めます。	危機管理課
◇ 犯罪被害防止と消費者トラブルの未然防止 (1) 犯罪被害防止の啓発とともに、地域における生活安全活動等の取組を支援します。 (2) 消費者トラブルを未然に防ぐため、ライフステージに応じて関係機関等と連携した取組を進めるとともに、相談窓口である消費生活センターおいて市民の消費生活をサポートします。	市民課 危機管理課
◇ 安全・安心な暮らしを支える社会基盤の長寿命化対策と強靭化、通学路及び生活道路の安全対策をはじめとする交通事故抑止 (1) 激甚化・頻発化する自然災害に備え、市民が安全に避難場所へ避難できるよう緊急避難路等の整備を推進します。また、市道（橋りょうや舗装を含む）、水路、ため池等について計画的な更新と修繕等の長寿命化対策を進めます。 (2) 準用河川の危険個所について、緊急度の高い個所から計画的に河川改修や浚渫など防災減災対策を進めます。 (3) 「飯田市通学路安全対策アクションプログラム」に基づき、児童生徒が安全・安心して通学できる通学路の安全対策と環境整備に取り組みます。 (4) 重要なライフラインの一部である上下水道施設について、経営戦略に基づいた計画的な更新整備を進めます。 (5) 地区要望に対する安全施設整備を緊急性及び危険性の高い箇所から進めます。 (6) 交通安全運動期間中の各種啓発活動や交通安全教室などにより交通安全意識の高揚を図ります。	土木課 維持管理課 地域計画課 水道課 下水道課 下水浄化センター 危機管理課

関係するＳＤＧｓ



基本目標 ３　飯田(ここ)で育って・育ててよかったと実感できるまちづくり

ねらい

○ ここに住んで（就職して、家庭を持って）よかった、ここでこどもを育ててよかったと実感できるまちづくりをすすめます。

○ こども・若者が政策立案、事業に主体的に関わることで自己有用感、自己肯定感を感じることができ、積極的に物事に関わろうとする文化、風土を醸成します。

○ こどもにとって家庭は最初の学校となるよう親も一緒に育ち、こどもの成長をみんなで喜び、家庭が一番安心できる環境づくりを地域全体ですすめます。

○ こども・若者が自分らしく生き、健やかに成長し、未来を描き実現に向けて生き抜いていける力の基礎を育みます。

戦略(考え方)

◆ こども・若者が政策立案、事業に主体的に関わることで自己有用感、自己肯定感を感じることができ、積極的に物事に関わろうとする文化、風土を醸成します。

◆ こどもを欲しいと望む時から、妊娠、出産、育児の心配や不安など個々のニーズに寄り添い、子育てが楽しめるよう、継続した効果的な相談・支援に取り組みます。

◆ 地域の自然や文化・芸術に触れ、体験や経験、地域との関わりの中で、こどもたちが生涯にわたって主体的に、他者と協働しながら思考力など生き抜いていける力の基礎を育みます。

◆ こどもたちが、他者と協働しながら主体的に学ぶ力を育みます。

◆ 地域の良さを活かしながら、全てのこどもたちにとって魅力ある学びの環境づくりをめざします。

◆ こども・若者のライフステージや様々な困難を抱えた家庭のこどもなど個のニーズに応じた相談等に寄り添い途切れのない支援体制により誰一人取り残さないよう取り組みます。

◆ こども・若者の健全な育成を実現するため、ライフステージのニーズに沿った経済的（家計）支援に取り組みます。

◆ こども・若者が安心して暮らせる社会のインフラの強化、通学路安全対策、公共施設整備（雨の日にも遊べる親子交流施設含む）等をこども主体で取り組みます。

◆ 地域を離れずに学びを深め、希望をかなえることができる若者を増やします。

◆ 相談者、施設利使用者等の利便性向上のためデジタル技術の活用を進めます。

◆ 幅広にそして気軽に意見を寄せてもらうため、デジタル技術を活用し、意見等を伝える選択肢を増やします。

【参考】基本目標と戦略(考え方)に基づく進捗状況を確認するための指標等及び主な取組(案)

想定する進捗状況確認指標、重要業績評価指標

指標	出生数		合計特殊出生率		信州やまほいく認証施設数	
基準値(単位)	627(人)	基準年度 2023	1.55(ポイント)	基準年度 2023	25(園)	基準年度 2024
目標値(単位)	(仮)600(人)	最終年度 2028	(仮)1.45(ポイント)	最終年度 2028	29(園)	最終年度 2028
指標	乳幼児健診・乳幼児相談の受診率		産後の指導・ケアを十分に受けることができたと回答する人の割合		「自分にはよいところがあると思う」と回答した児童生徒の割合	
基準値(単位)	98.0(%)	基準年度 2023	88.9(%)	基準年度 2023	小6年84.8(%) 中3年77.9(%)	基準年度 2023
目標値(単位)	98.0(%)	最終年度 2028	90.0(%)	最終年度 2028	基準年度を下回らない 小6年 県平均以上84.9(%) 中3年 県平均以上77.7(%)	最終年度 2028
指標	「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」と回答した児童生徒の割合		「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童生徒の割合		「コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解が深まった」と答えた回答の割合	
基準値(単位)	小6年 80.9(%) 中3年 70.8(%) 高校 62.2(%)	基準年度 2023	小6年 81.5(%) 中3年 63.4(%)	基準年度 2023	小6年 94.7(%) 中3年 88.9(%)	基準年度 2023
目標値(単位)	基準年度を下回らない 小6年 県平均以上81.2(%) 中3年 県平均以上68.8(%) 高校 令和5年度以上62.2(%)	最終年度 2028	基準年度を下回らない 小6年 県平均以上82.5(%) 中3年 県平均以上67.3(%)	最終年度 2028	基準年度を下回らない 小6年 県平均以上(95.8(%) 中3年 県平均以上93.6(%)	最終年度 2028
指標	特別な支援が必要なこども(児童生徒)へ何らかの支援や関わりを持って対応している割合		「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と回答した児童・生徒の割合			
基準値(単位)	小学校 100(%) 中学校 100(%)	基準年度 2023	小6年 80.0(%) 中3年 81.6(%)	基準年度 2023		
目標値(単位)	基準年度を下回らない 小学校 県平均以上96.4(%) 中学校 県平均以上99.5(%)	最終年度 2028	基準年度を下回らない 小6年 県平均以上81.2(%) 中3年 県平均以上82.2(%)	最終年度 2028		

想定する主な取組

想定する主な取組のイメージ	担当･関係課等
◇ 安心してこども・若者が意見表明、話し合いの場に参加することができ、その意見が反映できる仕組みづくり (1) こども・若者から意見を聴く機会、意見交換する場を継続的に設け、聴き取った意見等の協議過程や結果をフィードバックする仕組みを構築します。 (2) こども・若者の活動・活躍の場を大人も一緒に意見を出し合い考えます。 (3) こども・若者が自ら学び探究する活動を支援します。	こども課 公民館
◇ こどもが欲しいと望む時から妊娠、出産、産後の経済的支援及び効果的で途切れない相談支援 (1) こどもが欲しいと望む夫婦等の希望が叶うよう寄り添い支援をします。 (2) 妊娠期から産後、育児期間を通して途切れのない相談支援体制の継続、多様化する支援ニーズへ効果的な支援を検討し取り組みます。 (3) 地域での分娩機能を堅持するとともに、市民に対し健診や分娩ができる産科医療機関や助産院について情報提供を行います。	保健課 市立病院
◇ 地育力を活用し地域の自然や文化、地域との関りにより、こどもの生き抜いていける力の基礎を育み、心豊かな育ちを支える (1) 自然と地域との関りを大切にする「いいだ型自然保育」の取組を進めます。 (2) 民間保育所等と連携し、こどもの育ちや保護者の子育てを支える保育人材の確保と定着に向けた取組を進めるとともに、保育の質の向上を図ります。 (3) 地育力を活用し、こどもたちの主体性を大切にしながらふるさと学習や体験的な学びを軸として発達段階に応じて切れ目なく支援することで、自らの未来を描き生き抜いていける力の基礎を育みます。 (4) 文化スポーツ活動を通じて、豊かな心を育みます。	保育家庭課 学校教育課 生涯学習・スポーツ課 公民館
◇ こどもたちが主体的に学ぶ力を育む (1) 一人ひとりの問いや願いを大切にした、主体的な学び（ムトスの学び）を進めます。 (2) ＩＣＴを活用しながら、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図ります。	学校教育課 中央図書館
◇ すべてのこどもにとって魅力ある学びの環境づくり (1) 「飯田市立小中学校の今後のあり方に関する方針～第１次～」に基づき、各中学校区内の小中学校を小中一貫教育を進める「学園」として、義務教育９年間の学びの系統性と連続性を高めるとともに、「飯田コミュニティスクール」として地域・家庭も各学園におけるこどもたちの学びを支え、地域とのつながりを生かした「いいだ未来創造教育（仮称）」を進めます。 (2) 引き続き「飯田市これからの学校のあり方審議会」にて調査・審議を進め、第２次、第３次以降の方針の策定をめざします。	学校教育課 公民館
◇ 途切れのない発達・療育支援により発達に偏りのあるこどもや困難を抱えるこどもも、社会に順応しながら特性を活かして活躍できる誰ひとり取り残さない療育・教育環境とライフステージ対応した支援の構築 (1) 家族形態の変化、親の価値観の多様化、地域における支え合いの脆弱化などにより子育ての行き詰まりなど困難を抱える家庭に寄り添い、こどもが安心して生活できる療育環境の整備を進めます。 (2) 発達に偏りや障害があっても、互いを認め合い、困っている人には手を差し伸べる温かな人間関係のある集団づくりに向けて支援等を進めます。 (3) こどもの放課後や長期休みの居場所づくりの創設及び活動支援を推進します。	保育家庭課 こども課 こども発達センター ひまわり 福祉課 学校教育課

◇ 若者・子育て家庭への経済的支援 (1) 若者・子育て家庭の経済的負担の軽減や利便性などライフステージを通じた効果的な経済的支援に取り組みます。 (2) 幼少期から飯田の文化・芸術に触れ豊かな心を育む支援に取り組みます。 (3) ひとり親家庭等のこどもも親も希望する進学や就労がかなえられるよう関係団体と連携した支援に取り組みます。 (4) 経済的理由により進学等を諦めることがないよう、こども・若者の夢を応援します。	保育家庭課 保健課 学校教育課 文化会館
◇ こどもたちが安心・安全に生活ができる環境整備 (1) こどもたちが安心・安全に生活がきる環境を整えるともに、急激な気候変動に対応した施設整備に取り組みます。 (2) こども・若者が安心して集える都市公園の整備や、子育ての場として地域の魅力ある動物園の環境整備に取り組みます。 (3) 通学路の安全対策を推進します。	学校教育課 危機管理課 土木課 維持管理課 保育家庭課
◇ 地域の高等教育に係る環境の充実 市外ではなく、市内の高等教育機関への進学を選択し、若者等が生まれ育った地域を離れることなく希望をかなえることができる環境整備に取り組みます。	大学誘致 連携推進室

関係するＳＤＧｓ



基本目標 4　自然豊かな循環型の社会へ移行する

ねらい

○ 「環境への取組が文化になるまで」という環境文化都市の理念をより広く理解いただくことで行動変容を促し、市民の誇りにつなげ、まちの個性を確立することで、選ばれる飯田を実現します。

○ 製造から使用、廃棄や処理の過程まで含めて需要と供給がバランスした経済活動などにより循環型社会を目指します。

○ 地域ぐるみで省エネルギーに取組むとともに、地域産再生可能エネルギーの創出と利活用を進めます。

○ 地域の自然を守り、育み、活用する心豊かな暮らしを追求することで、自然資本をより良い状態で将来の世代に残します。

戦略(考え方)

◆ 環境文化都市づくりプラットフォーム「うごくる。」を通じて市民に広くアプローチするとともに、地域資源を生かした環境学習を進めることで一人一人の行動変容を促します。

◆ サーキュラーエコノミー（循環経済）への移行を視野に入れ、３Ｒを更に推進するとともに、消費者、事業者に対しても新たなサイクルについて理解が深まるよう働きかけます。

◆ 2050年いいだゼロカーボンシティ実現に向けて、エネルギーの見える化を進め、エネルギーの効率的利用をはじめとした省エネルギーを促進するとともに、地域産再生可能エネルギーの創出及び利活用を進めます。

◆ ネイチャーポジティブ（自然再興）の実現を目指し、生物多様性への理解を深め、地域の豊かな自然環境の保護及び利活用を進めます。

◆ 脱炭素社会や循環型社会の実現に向けて、信州大学の水の循環利用やグリーン水素の利活用の社会実装を図る実証タウンの形成に取り組みます。

◆ 省エネルギーの推進や一人一人の行動変容を促すため、エネルギーの見える化の研究や３Ｒの啓発に向けた情報発信にデジタル技術を活用します。

【参考】基本目標と戦略(考え方)に基づく進捗状況を確認するための指標等及び主な取組(案)

想定する進捗状況確認指標、重要業績評価指標

指標	環境に関する学習会や知識を高めるような行事に参加している人の割合		環境文化都市の認知度		一人一日当たり排出ごみ量	
基準値(単位)	20.1(%)	基準年度 2023	58.7(%)	基準年度 2023	540(g)暫定	基準年度 2023
目標値(単位)	35.0(%)	最終年度 2028	70.0(%)	最終年度 2028	508(g)暫定	最終年度 2028

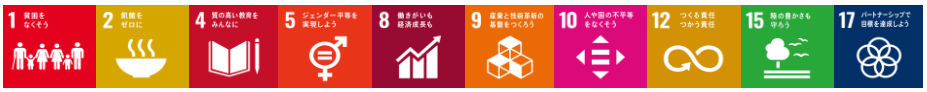
指標	リサイクル率		エシカル消費を心がけている人数比率		二酸化炭素排出量[2013年比]	
基準値(単位)	20.2(%)暫定	基準年度 2023	66.2(%)	基準年度 2023	100.0(%)	基準年度 2013
目標値(単位)	32.0(%)暫定	最終年度 2028	75.0(%)	最終年度 2028	50.0(%)	最終年度 2030

指標	ＯＥＣＭ国際データベース登録面積	
基準値(単位)	0(㎢)	基準年度 2023
目標値(単位)	59(㎢)	最終年度 2028

想定する主な取組

想定する主な取組のイメージ	担当･関係課等
◇ 「うごくる。」の充実と地域資源を生かした環境学習 環境文化都市づくりプラットフォーム「うごくる。」のコンテンツの充実を図り「うごくるゼミナ～ル。」「うごくる～む。」「うごくるＢ。」などにより広く市民に環境意識が高まる機会を提供する。ごみ分別やエコパーク・ジオパークなど環境学習を推進する。	ゼロカーボンシティ推進課 環境課
◇ エシカル消費の取組や新たなリサイクルの研究など３Ｒの推進 エシカル消費、分別の徹底など、３Ｒの推進に資する意識の啓発を行うとともに、新たなリサイクルの研究に取り組む。	環境課 市民課
◇ 省エネルギーの促進と地域産再生可能エネルギーの創出、利活用の推進 (1) 無駄なエネルギー使用の削減と効率的な運用により、エネルギー消費量を減らす取組を促進する。 (2) 地域産の再生可能エネルギーを普及拡大させるとともに、その活用を推進し地域のエネルギー自立を図る。	ゼロカーボンシティ推進課
◇ 地域の生物多様性等自然環境の把握及びＯＥＣＭの登録への取組 生物多様性と自然環境の保全のために、地域の固有種や特徴的な自然環境を把握し、ネイチャーポジティブの実現のためにＯＥＣＭの登録を目指す。	環境課
◇ 実証タウンの形成の実現に向けた取組 信州大学と連携して市内の公共施設、企業等での水の循環利用とグリーン水素の利活用の社会実装に必要な方策の研究を進める。	大学誘致 連携推進室
◇ デジタル技術を活用した３Ｒ啓発とエネルギーなどの見える化についての研究 (1) ごみの収集及び分別の情報を容易に取得できるスマートフォン用アプリの発信機能を用い、３Ｒに係る情報提供を行う。 (2) 家庭用、事業者用などエネルギーやＣＯ２の見える化について、デジタル技術を用いることで、簡略化、高速化できないか研究を行う。	環境課 ゼロカーボンシティ推進課

関係するＳＤＧｓ



基本目標 5　誰もが多様な働き方で活躍でき、次世代につながる魅力ある産業づくり

ねらい

○ 地域のすべての産業を支えるための担い手の育成と確保を最重要課題と位置づけ、従来取り組んできた回帰定着率向上や在職者向け人材育成の取組に加え、新たな戦略として、定着に向けた職場環境の改善、潜在労働力や外部人材の活用、デジタル活用による業務効率化・生産性向上による労働力補完、女性や若者等の多様な働き方（起業・副業及び在宅ワーク等）ができる環境づくり等、人材不足の緩和と適応を図ります。

○ 地域の資源・資産を活かして、製造業分野ではエス･バートを拠点に、大学との連携により次世代エアモビリティ･環境（水素･バイオマス）等の新たな産業分野への進出の支援と観光分野では多様な主体が参画した取組によるサステナブルツーリズムを展開するとともに、農業、林業、商業分野を中心に地域内経済循環を推進し、外部環境の影響を受けにくい力強い産業づくりに取り組みます。

○ リニア開業及び三遠南信自動車道の全線開通を見据え、産業用地等の整備を進め、働き方改革による物流革命や事業継続計画（ＢＣＰ）、カーボンニュートラルの観点も踏まえ、既存企業の拡張や新たな企業やオフィス等の誘致に積極的に取り組み、雇用の場の創出を目指します。

戦略(考え方)

◆ 地域のすべての産業を支える担い手を育成･確保するため、若者に地域産業の魅力を伝えるとともに、誰もが多様な働き方で活躍ができ、安心して働き続けられる環境づくりを進めます。

◆ 企業の稼ぐ力を高め、地域産業の更なる成長を目指し、大学等との連携を図り、地域産業の高付加価値化･ブランド化に取り組みます。また、カーボンニュートラルへの挑戦と新産業分野への取組（航空機電動化･次世代エアモビリティ分野への参画、水の循環利用やグリーン水素の利活用の社会実装を図る実証タウンの形成など）を支援します。

◆ 南信州地域が旅の目的地となるように、多様な主体が参画した取組により遠山郷、天龍峡等への誘客を図りつつ、地域固有の風土、人々の営み等の地域の魅力や資源を活用して、サステナブルツーリズムを推進し、関係人口の創出･拡大に取り組みます。

◆ 域内生産･域内発注･域内調達･域内消費により地域からの所得の流出を低減するとともに、環境負荷低減に寄与する地域内経済循環の取組を推進します。

◆ リニア開業及び三遠南信自動車道の全線開通を見据え、産業用地等の整備を進めつつ、地域の特性・強みを活かして企業･オフィス等の誘致に取り組みます。また、カーボンニュートラルへの取組を進める環境に配慮した企業の新規立地や拡張を支援します。

◆ デジタル人材の育成とＩＣＴ関連企業・人材の誘致・確保に取り組み、デジタル技術活用等により事業者の省力化と、生産性・サービス向上の促進を支援します。

【参考】基本目標と戦略(考え方)に基づく進捗状況を確認するための指標等及び主な取組(案)

想定する進捗状況確認指標、重要業績評価指標

指標	新規高校・大学等卒業者の地域内就職率		長野県職場いきいきアドバンスカンパニー認証企業数		新規就農者数(自営・親元・法人就農)	
基準値(単位)	35.4(%)	基準年度 2024	21(社)	基準年度 2024	13(人)累計	基準年度 2023
目標値(単位)	40.0(%)	最終年度 2028	30(社)	最終年度 2028	40(人)累計	最終年度 2028
指標	森林・林業をテーマとした講座の受講生数		飯田産業技術大学受講者数		I-Port、ビジネスプランコンペにより成立する創業・新事業展開・事業転換の件数	
基準値(単位)	63(人)	基準年度 2023	1,762(人)累計	基準年度 2023	8(件)累計	基準年度 2023
目標値(単位)	80(人)	最終年度 2028	10,824(人)累計	最終年度 2028	40(件)累計	最終年度 2028
指標	市田柿出荷量(南信州)		粗付加価値額(飯田下伊那)		ネスクイイダ引合件数(全体)	
基準値(単位)	2,075(t)	基準年度 2023	1,606(億円)	基準年度 2021	584(件)	基準年度 2023
目標値(単位)	2,200(t)	最終年度 2028	1,978(億円)	最終年度 2028	590(件)	最終年度 2028
指標	工業技術試験研究所利用件数		観光入込客数(遠山郷を除く)		観光地消費額(遠山郷を除く)	
基準値(単位)	2,500(件)累計	基準年度 2023	527,300(人)	基準年度 2023	763(百万円)	基準年度 2023
目標値(単位)	10,000(件)累計	最終年度 2028	669,000(人)	最終年度 2028	828(百万円)	最終年度 2028
指標	遠山郷の観光入込客数		遠山郷の観光地消費額		地元産品の購入状況調査「いつも・時々購入」と回答した割合	
基準値(単位)	70,700(人)	基準年度 2023	160(百万円)	基準年度 2023	84.4(%)	基準年度 2023
目標値(単位)	160,000(人)	最終年度 2028	260(百万円)	最終年度 2028	85.0(%)	最終年度 2027
指標	学校給食に提供する有機米の圃場面積		環境に配慮した農産物地域相互認証制度の認定者数		市産材の活用支援を利用した建築件数	
基準値(単位)	30(a)	基準年度 2024	0(人)累計	基準年度 2023	20(件)累計	基準年度 2024
目標値(単位)	100(a)	最終年度 2028	30(人)累計	最終年度 2028	100(件)累計	最終年度 2028
指標	搬出材積(国有林を除く)		地域ポイントの利用ポイント数		ネスクイイダ引合件数(会員間)	
基準値(単位)	7,690(㎥)累計	基準年度 2023	ー(ポイント)	基準年度 2024	43(件)累計	基準年度 2023
目標値(単位)	57,120(㎥)累計	最終年度 2028	検討中(ポイント)	最終年度 2028	44(件)累計	最終年度 2028
指標	企業立地・振興補助金交付件数		サテライトオフィス補助金交付数			
基準値(単位)	2(件)累計	基準年度 2023	2(件)累計	基準年度 2023		
目標値(単位)	8(件)累計	最終年度 2028	8(件)累計	最終年度 2028		

想定する主な取組

想定する主な取組のイメージ	担当･関係課等
◇ 地域産業を支える担い手・企業人材の育成・確保 (1) 担い手確保のため、高校生を対象とした地域内の事業所を知ってもらう機会や、就職後のミスマッチを低減する事業に取り組みます。 (2) 各産業分野において、意欲ある人材を確保・育成するための施策を展開します。 (3) 起業や副業・兼業人材の活用等の多様な働き方を支援します。	産業振興課 共生・協働推進課 農業課 林務課 工業課
◇ 地域の資源を生かした新産業・カーボンニュートラルへの挑戦と地域産業の高付加価値化の推進 (1) 大学との連携によりエス･バードの機能強化を図り、航空機電動化・次世代エアモビリティのニーズ等に対応したノウハウや研究支援体制が構築された地域として、事業化に向けた支援を進めます。 (2) 地域産業のブランド化・高付加価値化を推進します。 (3) 企業においてもカーボンニュートラルへの対応が求められている中、南信州地域での再生可能エネルギーの活用の可能性を探るとともに、脱炭素社会や循環型社会の実現を目指します。	農業課 林務課 工業課
◇ 多様な主体が参画した取組によるサステナブルツーリズムの推進 観光により持続的な地域づくりが実現できるように、地域の自然、歴史・文化、食、暮らしぶりを、多様な主体が参画した取組を通じて、人を起点につながり、感じていただくツーリズムを推進します。	商業観光課 遠山郷観光振興室
◇ 地域内経済循環の推進 地域内経済循環を促進する様々な産業について支援するため、ネスクイイダを中心とする域内取引の促進、環境に配慮した農業への取組、森林資源の循環サイクルの構築、行動経済学による消費者に対する域産域消の推進や、地域ポイント導入の効果について研究を進めます。	産業振興課 農業課 林務課 商業観光課 工業課
◇ 企業誘致、オフィス誘致の推進 (1) リニア残土を活用した産業団地の整備を引き続き推進するとともに、リニアビジョンに基づき座光寺ＳＩＣ周辺には研究開発型企業・機関等の誘致や本社機能の移転、エス・バードからリニア駅までのサステナブルオフィスゾーンや中心市街地等においては、サテライトオフィス等の誘致に取り組みます。 (2) カーボンニュートラルへの取組を進める環境に配慮した企業の新規立地や拡張も支援します。	工業課
◇ デジタル技術を活用した地域課題の解決や人材育成の取組 (1) 地域内の産業人材不足に対応するため、デジタル人材の育成と確保を積極的に進め、デジタル活用による事業者の省力化･自動化、生産性・サービス向上等を関連機関とともに支援します。 (2) スマート農業の実用化と普及を推進します。	産業振興課 農業課 工業課

関係するＳＤＧｓ



基本目標 6　支えあい、誰もが尊重され、健やかに いきいきと暮らすことのできるまち

ねらい

○ お互いが認め合い地域や社会とつながって支え合う「地域共生社会」を構築し、地域や行政等の多様な主体が一体的に役割を発揮して健康と福祉を推進します。

○ 心身ともに健やかに生涯現役で活躍できる「市民総健康･健康長寿」のまちづくりを推進し、健康寿命の延伸が医療･福祉分野の社会保障費抑制にも寄与できるよう、健康増進･介護予防に取り組みます。

○ 医療･福祉を必要とする市民が必要な時にサービスを受けられるよう、またニーズの多様化･複雑化にも対応できるよう、提供体制の維持に努めます。

戦略(考え方)

◆ 共に支え合い、助け合い、誰もが住み慣れた地域で暮らすことができる地域共生社会の実現を目指して、地域住民や多様な主体と協働し、地域福祉を推進します。

◆ 福祉課題を抱えた市民の孤立を防ぐため、多様な主体が連携して問題解決を目指す仕組みを構築し、世代や属性を超えた交流の場や個々のニーズに応じた居場所を整備すると共に、アウトリーチ等を通じた支援をします。

◆ 研修会や広報活動等を通じて、市民の障がいに対する正しい理解を深め、障がい者が安心して地域で生活し、社会参加できるよう、差別や虐待のないまちを目指します。

◆ 健診受診等の機会を捉え、働き盛り世代から自身の健康維持や健康増進の取組を推奨し、生活習慣病の発症及び重症化予防と将来の介護予防を推進します。

◆ 全世代に向けて毎日の生活習慣を整えることの重要性を発信し、年代に応じた健康意識の向上と健康づくりの意識醸成への取組により、生活習慣病や歯周病等を予防します。

◆ 高齢者が地域や社会の中で役割を持ち、様々な場面で活躍できることが「生きがい」となり、豊かな人生につながることから、できる範囲で社会参加するよう取り組みます。

◆ 自分らしく満足できる生活の実現に向けて、意欲的に健康づくり、介護予防、重度化防止に取り組むことができるよう、高齢者の「やりたい」気持ちを引き出す仕組みの充実を図ります。

◆ 医療･介護サービスの提供体制を維持するため、側面的支援として担い手の確保や従事者の離職防止、関係団体との連携強化に取り組みます。

◆ 高齢者の相談にデジタル技術を活用し、予約事務の効率化やリモートによる相談対応等、利便性の向上について検討します。

【参考】基本目標と戦略(考え方)に基づく進捗状況を確認するための指標等及び主な取組(案)

想定する進捗状況確認指標、重要業績評価指標

指標	近所の人と支え合うことを実感している人の割合		ひきこもり家族学習会への参加促進		障がい福祉の理解啓発	
目標値(単位)	71.7(%)	基準年度 2023	6(人)	基準年度 2023	61(人)	基準年度 2023
目標値(単位)	71.7(%)	最終年度 2028	10(人)	最終年度 2028	100(人)	最終年度 2028
指標	健康寿命		国民健康保険加入者の特定健診受診率		20歳、30歳、40歳の歯科健診受診率	
基準値(単位)	調査中(歳)	基準年度 2023	調査中(%)	基準年度 2023	調査中(%)	基準年度 2024
目標値(単位)	平均寿命の増加分を上回る増加(歳)	最終年度 2028	57.5(%)	最終年度 2028	R6年度数値+5(%)	最終年度 2028
指標	要介護認定出現率		初回要介護認定時の平均年齢			
基準値(単位)	17.85(%)	基準年度 2023	84.03(歳)	基準年度 2023		
目標値(単位)	18.66(%)	最終年度 2028	84.08(歳)	最終年度 2028		

想定する主な取組

想定する主な取組のイメージ	担当･関係課等
◇ 地域福祉の推進 (1) 地域福祉コーディネーターとの連携を強化するとともに、地区で取り組む好事例や先進事例の未実施地区への横展開を図るなど、課題解決に向けた取組につなげます。 (2) 民間事業者、地域等の社会全体による見守り体制を構築するとともに、ごみ出し困難世帯に対する支援の拡充など、生活課題の解決に取り組みます。 (3) 地区の特性を生かした取組を推進すると共に、各地区における課題解決に向けた取組を支援します。	福祉課
◇ 福祉まるごと相談窓口の充実化と相談支援体制の強化 (1) 断らない相談窓口としての機能を強化すると共に、広く市民に周知し、困りごとを抱えた人を適切な機関等につなげます。 (2) ひきこもり家族の学習会の充実化を図ると共に、アウトリーチ、伴走型支援など、当事者や家族に寄り添った支援を行います。 (3) 支援が届いていない人に支援を届け、個々のニーズに応じた居場所の整備に取り組みます。	福祉課
◇ 障がい福祉の推進 (1) いいだ障がい福祉プラン2024に基づき、市民の障がいに対する正しい理解を深め、差別や偏見、障がい者虐待をなくすための取組を進めます。 (2) 障害者差別解消法における事業者による障がいのある人への合理的配慮の提供について、理解を深めると共に、市民への啓発を行います。 (3) 障がいの程度や種類によって不利益がなく、情報取得する方法を選択できるよう環境を整備していきます。 (4) 地域における相談支援の中核的な役割を担う基幹相談支援センター設置に向け関係機関とともに検討を行います。 (5) 医ケア児等コーディネーターを中心に医ケア児等の実態を把握し、個々の状況に応じた支援につなげます。	福祉課 こども課
◇ 働き盛り世代からの健康づくり (1) 国保被保険者の生活習慣病発症と重症化を予防するため、特定健診受診を促し、その結果により必要な特定保健指導を実施します。 (2) 職場等で検診（健診）機会のない市民が、がんを早期発見し、早期治療できるよう支援します。 (3) ドナー登録の勧めや、がん治療によっておこる外見変化に対する支援を行います。	保健課
◇ 全世代に向けた健康づくりと介護予防の推進 (1) 市民が、健康に関心を持ち、生活習慣を見直し、自分に適した運動・食生活・口腔衛生習慣を理解し、実践できるよう取り組みます。また、食育推進計画に基づき、朝食欠食などの課題解決を含む食育を推進します。 (2) 各地区まちづくり委員会健康福祉委員等が地区の健康課題を学び、その課題解決に向けた活動が展開できるよう支援します。 (3) 65歳以上の市民の心身の機能低下を抑止し、健康の保持につなげます。 (4) 後期高齢者に対し、各種健康教室の開催など効果的な保健事業を実施することで、介護予防を推進します。	保健課
◇ 地域医療への支援 (1) 飯伊医療圏の医療体制の調整を担う飯伊地区包括医療協議会の運営を支援します。 (2) 飯伊医療圏域の休日・夜間の医療体制について、飯田市休日夜間急患診療所を運営するとともに、在宅当番・輪番制により確保します。 (3) 千代・三穂・上村・南信濃の各診療所及び上村歯科診療所を運営します。 (4) 予防接種対象者のうち、希望する方に接種を実施するとともに、接種機会を安定的に確保するため、対象者に対する接種勧奨と制度周知を行います。 (5) 地域の医療機関と市立病院との密接な連携により、地域医療体制を支援します。	保健課 市立病院

◇ 介護予防の意識醸成 (1) 市民が積極的かつ継続的に介護予防（特にフレイル予防）に取り組めるよう、「通いの場」等の参加者とサポーターに対して健康ポイント事業を継続し、介護予防に対する意欲を高めます。 (2) 事業対象者、要支援認定者に通所及び訪問サービスを提供することにより、介護予防、重度化防止を推進し、在宅生活の継続を目指します。 (3) フレイル予防、転倒防止を目的に、元気高齢者に効果的な運動指導を行います。	長寿支援課
◇ 高齢者の生活支援・介護予防の基盤整備 (1) 日常生活圏域全てに地域包括支援センター設置を目指し、７つ目の地域包括支援センターを新規開設するとともに、日常生活圏域全てに設置したセンターが、医療、介護等の関係機関と連携して高齢者の地域包括ケアを推進します。 (2) 生活支援コーディネーターが、地域の実情に応じて「通いの場」の支援や介護予防の体制整備を推進するとともに、高齢者が活躍する地域づくりに取り組みます。	長寿支援課
◇ 介護人材確保に向けた側面的支援 新たな職員の確保や離職防止に寄与できるよう、就労環境の改善や職員確保につながる補助、雇用につながる機会等の創出に取り組みます。また、有資格者の確保が困難であることを背景に、資格を有しない介護助手や外国人の雇用促進につながる機会を提供します。	長寿支援課

関係するＳＤＧｓ



基本目標 7　リニア・三遠南信道時代に向けた都市基盤をつくる

ねらい

○「リニアの整備効果を地域振興に活かすビジョン(案)」を実現していくため、住民との合意形成を図りながら、リニア中央新幹線の開業や三遠南信自動車道が開通した後の時代を見据えた土地利用計画の検討、見直しを進めます。

○ 近い将来リニア中央新幹線や三遠南信自動車道を利用した方が何度でも訪れたくなるような地域に向けて、自然と調和した利便性の高いリニア駅前広場や広域的道路ネットワーク等の都市基盤の強化を進めます。

○ 次世代モビリティやデジタル技術を活用したリニア二次交通の検討を進めるとともに、利用者目線の持続可能な地域公共交通の構築に取り組みます。

○ デジタル技術を様々な課題の解決や新たな価値やサービスを創出する“変革の手段”として活用し、ＤＸによる持続可能な社会を創造するための基盤や推進体制の構築に取り組みます。

戦略(考え方)

◆ リニア中央新幹線の開業や三遠南信自動車道が開通した後の時代を見据えた土地利用のあり方や景観のあり方について全市的な視点で検討を行うため、まずは交流重心内における「リニアの整備効果を地域振興に活かすビジョン(案)」の実現に向けた土地利用上の喫緊の課題から検討、見直しに取り組みます。

◆ リニア中央新幹線や三遠南信自動車道の整備効果を地域振興に活かすため、関連道路等の整備による広域的道路ネットワークの強化を図るとともに、観光やリニア開業を見据えた産業立地選択･居住地選択等においてリニア開業の遅延に関わらず、選ばれ訪れたくなるような地域の形成を目指した拠点間ネットワークの整備を推進します。

◆ 県内唯一のリニア中間駅として、グリーンインフラ等の考え方を取り入れ自然と調和した利便性の高いリニア駅前広場の整備を進めるとともに、関係機関等と整備スケジュールの整合を図り、関係者等の意向や環境影響等に十分配慮しながら、リニア駅前広場の一部供用を行うなど段階的な活用を目指します。

◆ リニア中央新幹線の開通や三遠南信自動車道の全通に向けた気運醸成を図るため、市民への適時適切な情報を発信します。

◆ 目的地へスムーズにいざなうことができるように、次世代モビリティやデジタル技術を活用したリニア二次交通の検討を進めるとともに、路線ごとの利用特性やニーズの把握を行い、利用者目線の持続可能な地域公共交通の構築に取り組みます。

◆ デジタル技術を様々な課題の解決や、新たな価値やサービスを創出する手段として活用し、行政及び各施策分野における社会のＤＸを推進するために必要となる共通の基盤や推進体制の構築に取り組みます。

【参考】基本目標と戦略(考え方)に基づく進捗状況を確認するための指標等及び主な取組(案)

想定する進捗状況確認指標、重要業績評価指標

指標	リニア駅前広場整備の整備率(整備可能部分)		座光寺ＳＩＣ関連道路の整備率		公共交通利用者数	
基準値(単位)	10.0 (%)	基準年度 2024	86.0 (%)	基準年度 2024	310,887 (人)	基準年度 2024
目標値(単位)	100.0 (%)	最終年度 2028	100.0 (%)	最終年度 2028	検討中 (人)	最終年度 2028

指標	住民への情報発信回数(説明会・出前講座等)		デジタル技術を活用した課題解決プロジェクトの取組数	
基準値(単位)	42 (回/年)	基準年度 2024	0 (個)	基準年度 2024
目標値(単位)	40 (回/年)	最終年度 2028	検討中 (個)	最終年度 2028

想定する主な取組

想定する主な取組のイメージ	担当･関係課等
◇ リニアビジョン(案)の実現に向けた各種土地利用計画の見直し 土地利用基本方針に掲げる拠点集約連携型都市構造の推進と、山・里・街の豊かで多様な暮らしの実現に向けて、適正な土地利用の誘導策の検討に取り組みます。	地域計画課 リニア整備課
◇ 関連道路等の整備による広域的道路ネットワークの強化を図るとともに、観光や産業立地選択・居住地選択等において、選ばれ訪れたくなるような地域の形成を目指した拠点間ネットワークの整備を推進 (1) 市全域及び南信州地域全体の広域的道路ネットワークの強化の観点から、各同盟会の活動等を通じ三遠南信自動車道をはじめとする国道や県道の早期整備に向けた取組を推進します。 (2) リニア開業や三遠南信道開通を見据えた観光や産業立地選択、居住地選択において選ばれ訪れたくなるような地域の形成を目指し拠点間の道路ネットワーク及びリニア駅・座光寺ＳＩＣ周辺の道路整備を推進します。	土木課 国県関連事業課 リニア推進課 リニア整備課
◇ 関係者等の意向や環境影響等に十分配慮しながら、リニア駅前広場の一部供用を行うなど段階的な活用を目指す (1) リニア開業の延期を受け、リニア駅前広場の実施設計の状況を踏まえながら、地権者等をはじめとする地元地域住民に対し環境への影響等に最大限配慮し、関係地区及び関係機関と協議調整を行い、整備できる部分の整備を進め、一部供用を目指し事業を進めます。 (2) リニア駅前広場の効果的な活用に向け、関連自治体の意向や民間等多くのステークホルダーの考えやノウハウ等も反映・活用しながら、リニア開業までの活用方法や維持管理等も含め検討し、一部活用を目指します。また、リニア開業に向けた「交通・エネルギー」、「駅前空間整備」、「魅力発信」等の分野でも具体的な機能の実装に向けた検討を行います。	リニア整備課 リニア推進課 リニア用地課
◇ リニア・三遠南信に対する気運醸成を図るため、市民への情報発信 リニア中央新幹線の開通や三遠南信自動車道の全通に向けた気運醸成を図るため、事業の進捗状況や計画の内容について適時的確な内容と多様な手法での情報発信を行います。	リニア整備課 リニア推進課 国県関連事業課
◇ 次世代モビリティやリニア二次交通の検討と持続可能な地域公共交通の構築 (1) リニア開業の遅延により、より現実的となる次世代モビリティのうち、最も実現の可能性が高い自動運転の技術について、実証実験等を重ねレベルアップを図りつつ、地域公共交通での自動運転活用の可能性について検討します。 (2) 都市圏に向かうリニア利用者のリニア駅へのアクセス、都市圏から来訪するリニア利用者を様々な拠点に誘うための交通手段等、利便性が高い二次交通の実現に取り組みます。 (3) 住民の日常生活に欠かせない移動手段である地域公共交通の利用者の増加に向け、利用者のニーズを把握し交通事業者と協議を行いながら利便性向上のための改善に取り組みます。	リニア推進課
◇ 行政及び社会のＤＸを推進するために必要な基盤や連携推進体制の構築 (1) 電子申請などのオンラインによる市民サービスの拡充と、デジタルのまま完結できる内部事務システム基盤を構築し、オンラインサービスと連携した効率的な事務処理への移行を進めます。 (2) 誰もがデジタル技術による利便性を享受できるように人材育成を図るとともに、デジタル技術を活用して各施策分野の課題の解決に取り組むためのデータ基盤の整備や、産学官の連携推進体制の構築に取り組みます。	デジタル推進課